



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 2026年2月20日 発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子
 第785号 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

**第44回定期大会以降の拡大
(2025.6.12~)**



JR東労組で共に頑張っていきましょう!



第52回定期中央委員会

全ての方針が満場一致で可決!

2月5日、コロンホールにおいて第52回定期中央委員会を開催し、スローガンをはじめとする全ての方針が満場一致で可決されました。
 質疑では20名の委員から、「2026JR総連春闘勝利に向けて職場現実に基づいてたたかっていくこと」「安全第一!現場第一!で『責任追及から原因究明へ』のたたかいは職場からつくり出していくこと」「あらゆるハラスメント・不当労働行為を許さないたたかいを強化して、傲慢な経営姿勢に立ち向かっていくこと」「仲間と共に組織拡大の実践をしていくこと」等の発言がありました。
 健全なJR東日本グループをつくり出すために、職場から堂々とJR東労組運動を押し進めていくことを確認しました。

承認された事項

- ・スローガン
- ・第44回定期大会以降の経過と当面の取り組みについて
- ・労働協約・協定締結について
- ・2026年度暫定予算について
- ・組織財政検討委員会答申(「セカンドキャリアスタッフの新設」による組合員資格について)
- ・JR東日本グループで発生する不当労働行為を是正させ、働く者が安全で安心して働ける健全な会社をめざす特別決議
- ・委員会宣言

スローガン

1. **安全第一!現場第一!**を掲げ新たな施策に立ち向かい、組合員の雇用と利益を守り抜くために、**26春闘勝利!過半数代表者選挙勝利!1万名組織をめざし、組織強化・拡大を実現しよう!**
1. **健全なJR東日本グループをつくり出すために、**
不当・不法行為とあらゆる妨害を許さず「職場からの挑戦」でたたかいを強化しよう!
1. **「平和・人権・民主主義」を掲げ、「抵抗とヒューマニズム」の精神を根底に、**
時代認識を深め平和で安心して暮らせる社会をめざして全組合員でたたかおう!

確認された方針のもと、

職場からのたたかいを強化しよう!

申17号 2026年度賃金引き上げ等に関する申し入れ

1. 2026年4月1日以降のJR東労組組合員・社員の
職務能力給を一律18,000円(昇給を含まない)引き上げること。
2. 2026年4月1日以降のエルダー組合員・社員の
基本賃金を18,000円引き上げること。
3. 2026年4月1日以降のセカンドキャリアスタッフ組合員・社員の
基本賃金を18,000円引き上げること。
4. **現行の定期昇給額の水準を維持した昇給を実施すること。**
5. 回答については、2026年3月16日から3月19日までとすること。

申18号 2026年度夏季手当等に関する申し入れ

1. 役割遂行賃金の**3.2ヶ月**とすること。
2. 新制度移行に伴う変動要素を加味して、
一律5万円を支給すること。
3. 支払いについては、2026年6月26日までとすること。
4. 回答については、2026年3月16日から3月19日までとすること。

制度改正を理由に賃金引き上げや夏季手当を抑制することは許さない!

ベースアップに格差はならない!春闘破壊を許さない!

厳しい現実の中での組合員・社員の奮闘と努力を一番の考慮要素として、

モチベーションの向上に資する満額回答を求めます!

「帰ったら、また雪片付けた」と告げて友人は帰っていった▼職場現実を正しく掴み、職場の声を基にして、安全第一で働ける職場環境を提示し、実現させていこう。

(H・S)



子どもの頃は、雪を見るワクワクしたのが、今冬の大雪にはうんざりしている。そのような中、先日、私よりさらに豪雪地方に住む友人と話をする機会があった▼通勤は、通常15分のところ3時間もかかり、道路は車が飛び跳ねるくらい凸凹状態で、すれ違つてもできず事故が相次いでいるという▼除雪や排雪を待ちわびる市民に対して、市の対応に不信や怒りの声が多く出ている。降雪量が多過ぎて除雪が追いついていない中、市道の除雪に対して県が代行除雪を提案するも、市側が「そのような段階ではない」と発言したことが火に油を注いだようだ▼市民の声、苦しんでいる状況を把握できない市側の姿勢は、JR東日本で要員不足に悲鳴を上げる職場現実に対して「決して人手不足があるといふことではない」と発言する経営陣と同質で「看過できない!」現場認識とのズレが生じている▼久しぶりの再会は、あっという間に過ぎ去り「帰ったら、また雪片付けた」と告げて友人は帰っていった▼職場現実を正しく掴み、職場の声を基にして、安全第一で働ける職場環境を提示し、実現させていこう。